

# 北信教育事務所だより 第9号

令和3年1月20日(水)

～教師・学校・地域がつながるために～

コロナ禍で



つながる学び

飯山市立泉台小学校 5年生は、「青い目の人形」について探究していくうちに、他校でも同じ取組をしている諏訪市立中洲小学校6年生と情報交換をすることになりました。オンライン会議ツールを駆使して、互いに学んだことを伝え合いました。

特集

学び続ける子ども、教師、学校

# 日々の授業に Zoom in !!

— 継続的な対話の中で育まれてきた教師の成長 —

11月20日(金)、26日(木)に、**第3回日々の授業改善研修**が行われました。約50名が教科・領域毎に Zoom でつながり、今年度行った授業の実践発表や今後の授業づくり研修を行いました。

今回は、1年間を通して3回の研修(国語)に参加した講師1年目のT先生の成長を紹介します。



～研修の様子～

## 課題をもち

字を書くことに課題をもつ児童への支援方法、そして、書くことに苦手意識を持たないようにするための手立てを身につけることが**課題**です。(第1回)

## 計画し

「ごんぎつね」の模擬授業を受けて、文脈から感情を読み取る活動が印象的だった。ただ教科書に書かれた話から読み取るのではなく、あえて言葉を入れ替えたり、違う言葉に変えたものを提示したりして、どのような感じ方の違いがあるのかを考える活動はとても面白かった。**今後の授業づくり**に大変参考になった。また、感じ方の違いだけでなく、どの文がどう違うのかといった間違い探し感覚でも学習を進められるため、読み書きが苦手でも取り組みやすいと感じた。(第2回)

## 振り返る

～日々の授業～

読み書きに課題のある児童への手立てと学級全体の書く力をどうつけていくかを課題に授業を行い、発表した。他校の先生方にも意見をもらって、児童が自分自身の言葉で書くべき所と教科書の中から答えを見つけて書く所を教材によって分けることの**重要性を再確認**できた。校種や単元は別でも、悩みを共有し、意見を出し合うことは、とても勉強にもなり、「児童が必要感をもって学習をできているか」という問いに**ハツ**とした。「国語の学習は、らせん状になって続いていく」という言葉を忘れずに、授業をしていきたい。(第3回)

日々の授業の中で生まれたT先生の自己課題。研修で集った仲間や指導主事との対話の中で、課題解決のための見通しが明確になり、授業実践と実践発表を通して、**手立ての有効性を実感**するとともに、**新たな課題への気付き**が生まれ、**明日の授業につながる**具体的な支援のあり方がみえ、一年間の研修を通して、T先生の成長につながっていきました。

## シリーズ 信州型UD推進校の取組③ 千曲市立屋代中学校

屋代中学校では、UDリーダーが中心となって信州型UDの推進に取り組んでいます。2年次の本年度は、信州型UDの視点を取り入れた授業実践の蓄積や校区の小学校での出前研修など、信州型UDの取組の成果を地域に広げる活動を行っています。2年間の重点的な取組により、信州型UDについての理解が学校全体に浸透し、先生方の生徒理解や授業改善につながっています。



### 【信州型UDの窓口と着眼点】

- 安心して参加できる授業の工夫（活動に取り組みやすい配慮、理解を助ける配慮）
- 合理的配慮（学習状況の科学的なアセスメント）

### 【本年度の取組】

#### (1) 校区の小学校での信州型UD研修の実施

UDリーダーが校区の屋代小と東小に出向き、信州型UDカードと動画教材を用いて研修を行ったり、小学校の先生方に中学校での取組の様子を知ってもらったりしました。

また、小学校で気がかりな児童が中学校に進学した際、どのような支援ができるか共通理解を図ることで、小中の接続がスムーズになるようにしました。

#### (2) 信州型UDの視点を取り入れた授業実践の蓄積

1学年の書写では、生徒がゆとりのあるスペースで、互いの様子を見ながら作品を書くことができるようにするため、柔剣道場で授業が行われました。国語科のM教諭は、「活動に取り組みやすい配慮」として、道具の準備の仕方や書く時の筆の運び方などを動画で提示し、準備などに時間がかかる生徒が追究の時間を十分に確保することができるようにしました。場面かん黙のAさんは、普段は行動がゆっくりで書く時間が足りなくなることがありますが、本時は準備の手順が分かり、周囲の様子も見やすかったため、最後まで自分の力で作品を仕上げることができました。

このような信州型UDの視点を取り入れた授業実践については、信州大学教育学部

准教授の下山真衣先生にもご指導いただき、専門的な視点からご助言をいただいています。このような取組が各教科で行われています。



#### (3) 困り感をもつ生徒への支援 ～コグトレの導入～

信州型UDに着目した授業を積み重ねていく中で、困り感をもつ生徒の特徴として、教科書がよく読めなかったり、イメージすることが難しかったりする生徒の様子が見えてきました。そこで、生徒一人ひとりの学びの力を育むために、コグトレ（認知機能を強化するトレーニング）を試行的に1学年に導入しています。生徒が学習面での注意力を高めたり、社会面で感情をうまくコントロールする力を身に付けたりすることをねらっています。

生徒からは「頭の体操になる」「考えるのが楽しい」など肯定的な感想が聞かれます。先生方も継続的な取組に手応えを感じ始めていて、次年度は1、2学年へ拡大することにしています。



## だんだんと相手に思いを寄せていく交流活動

～幼稚園 年長組 「おまつりごっこをしよう」の活動の姿から～

おまつりごっこを計画した年長組さんは、年少組さんをお祭りに招待しました。お客さんが初めて来るので、用意したものを遊んでもらうのが楽しみで仕方ありません。自分のペースで進めることが好きなAさんも、年少組さんに「遊ばせたい」思いでいっぱい、積極的に準備をしていました。

活動に入る前にB先生は、Aさんにお客さん役になってもらい、活動の流れを確認しました。活動の見通しをもつことができたAさんには、笑みが浮かんでいました。

いよいよお祭りが始まりました。Aさんが準備した射的屋さん、たくさんのお客さんが並び始めました。「一番人気だぜ。よっしゃあ」と、Aさんは喜びました。頑張って準備したことを認められた気分になったのかもしれませんが、B先生は、喜ぶAさんに「混んできたから、2列に並んでくださいって言うてみたら？」と話しかけました。すると、Aさんは大きな声で「2列に並んでくださいねえ」「どうぞどうぞ」と、呼びかけ始めました。Aさんの中に、年少組さんに「楽しんでほしい」という思いが湧いてきたように見えました。



後半、Aさんは年少組のCさんと一緒に、お客さん役になって歩く番になりました。Cさんが「射的をしたい」と言いました。列に並び、2人の順番が回ってくると、Aさんは膝をつき、「こうやって打つよ」と教えました。大きな景品をもらって、Cさんがとっても嬉しそうな表情を見せると、それを見たAさんも、同じように微笑

みました。その後、金魚すくいに行き、Cさんが大きな魚をすくい上げると、Aさんは「やったあ」と自分のことのように喜びました。

Cさんが「もう一度射的がしたい」と言うので、AさんはB先生の所へ相談しに行きました。B先生は「また今度の時、誘ったらいいよ。そのために、お名前聞いておくといいよ」とアドバイスしました。するとAさんは、Cさんの所へ行き「お名前なんて言うの？」と尋ねていました。

最後に、みんなで踊ることになりました。Aさんは「まねして!」と誘いました。「ここで、立つ!」と言うと、それに合わせてCさんも立ち上がりました。2人は、見つめ合って踊っていました。呼吸がだんだんと合っていくように見えました。



片付けの時間、Aさんは部屋で休んでいました。寝そべるAさんに「どうだった?」と問いかけると、「めっちゃ大変だった。あちこち指さすんだもん。めっちゃ大変だったから、2回おかわりする」と話してくれました。

だんだんとCさんに思いを寄せていくAさんの姿が、キラッと輝いていました。お昼のおかずを頬張るAさんが、目に浮かんできます。



# 変わる初任者研修

～ 教員は学校で育つ・メンター方式の導入 ～

## 普段からの取組を生かした初任研メンター方式 我が校の工夫

長野県教育委員会では、8月に初任研メンター方式を取り入れている県内の学校のメンターリーダー・研修コーディネーターの先生方にアンケート調査を行いました。来年度以降、導入が増えていく初任研メンター方式の、これまでの成果と課題を明らかにして、今後のあり方につなげていきたいと思います。

本稿では、以下の質問内容の回答の一部を紹介します。

### Q: メンター方式について、工夫した実践事例があれば教えてください



【授業改善の機会】校内の授業参観研修では、ベテランの先生だけでなく、若手の先生の授業も参観することで、お互いに授業改善の機会になるようにしています。初任者は初めての学級担任ということもあり、自分の学級の授業参観の機会を多めに組んでいます。自分の学級で他の教科担任がどのように授業を進め、生徒がどのように学んでいるのか見取り、学級経営につながるようにしています。



【仕事の楽しみ】若い先生方の研修の場として位置付け、にぎやかに楽しみながらも、本題について話し、語り合う機会になっています。学ぶ子どもの側に立って教材研究ができるように、運動やものづくりをしたり、Web会議システムの使い方を学んだり、多岐に渡る研修をしながら、学び合える場になっています。



【職員の交流】初任研が教科内やメンターチームでの交流の場となり、初任者が安心して語ったり研修したりしています。研修での一場面を日報で紹介して

もらうこともあり、職員全員で共有し、初任研への理解を高めています。



【教材研究の場】教科横断的な学習へと発想を広げて教材研究を行い、チーム内の先生が授業を行った。

(国語「まいごのかぎ」の内容読解→ 図工「オリジナルのまいごのかぎ(工作)」「不思議な出来事(絵画)」→ 国語「まいごのかぎ」表現(図工で描いた絵をもとにした作文))



【職員研修の場】学年会をメンターチームの一つとして研修を計画することで、学級経営・道徳教育・特別活動(生徒会)・通知表作成の配慮点の確認など様々な研修を仕組むことができています。



【リーダーシップを発揮して】初任者の得意分野である ICT の技能を生かして、臨時休業中のタブレット端末を使った Zoom でのオンライン授業の準備段階で初任者に講師役として活躍してもらった。



【組織づくり】研修コーディネーターは複数校を兼務するが、メンターリーダーと連絡調整を図る時間を確保することが難しい。あらかじめ時間割にその時間が組み込まれている学校は大変有難いです。

普段からの取組を生かしたメンター方式の運用の工夫により、研修内容の充実につながる様子が見られます。前号において、五加小学校の先生が語っていた、「**初任者研修が校内の先生方の研修にもつながっている**」という言葉は、メンター方式を取り入れている他校の様子からも、大きな成果の一つとしてうかがうことができます。

# 総合的な学習の時間のカリキュラムづくり

令和3年1月発行

## 保存版

北信教育事務所

来年度は中学校でも新学習指導要領の全面実施となります。「総合的な学習の時間」の計画を全て最初から立て直すのではなく、各学校や学年が今まで積み上げてきている学習活動を活かし、子どもたちに資質・能力を育成するにはどのように見直したらよいか考えてみましょう。

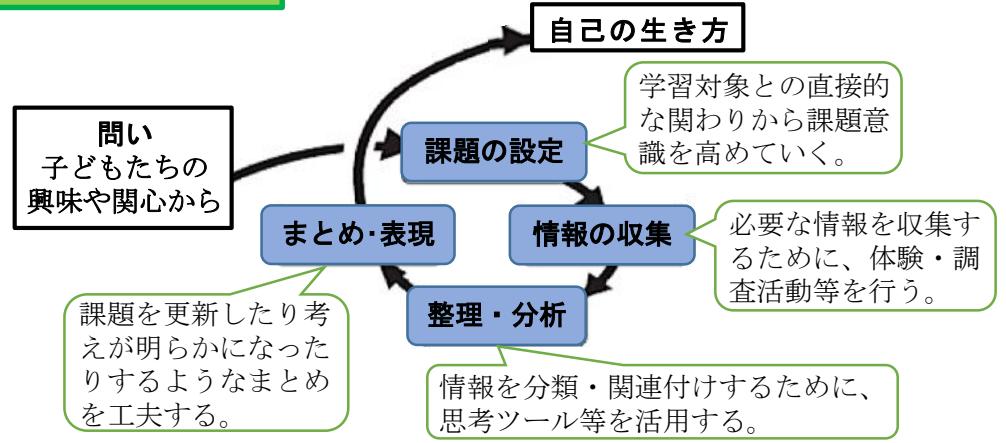
### Q1 「総合的な学習の時間」で資質・能力を育成するにはどんなことが大切ですか？



問題解決的な活動が発展的に繰り返されるように、「**探究的な学習の過程**」が大切となります。

探究的な学習の過程は、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後したり一つの活動の中に複数の過程が一体化して同時に行われたりする場合があります。教師自身が学習活動の過程を見通しておくと、支援のあり方を考えやすくなります。

#### 探究的な学習の過程



### Q2 「総合的な学習の時間」の全体計画の見直しのポイントは何ですか？



総合的な学習の時間の内容として、目指す子どもの姿をイメージしながら、以下の2つを全体計画の中に設けましょう。

- ・探究課題
- ・育成を目指す具体的な資質・能力

各学校の総合的な学習の時間での取り組みを通して、どのような資質・能力を育てようとするのか目標を位置付け、その目標を実現するにふさわしい探究課題と、その解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を定めることが大切です。

※裏面に、中学校の全体計画(例)が掲載されています。

#### ☆豆知識☆

「探究課題」とは、従来「学習対象」と説明されてきたものに相当します。探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものです。

#### 例 中学校の全体計画(一部分)

<b>【生徒の実態】</b> ○友だちと役割を分担しながら意欲的に活動することができる。 △友と語り合ったり、深くめつたりすることに消極的である。	<b>【教育目標】</b> 自主 友愛 剛健	<b>【地域のひと・もの・こと】</b> ひと…地域の農家、企業会社で働く人々 もの…寺、街道等 こと…祭り、作物栽培	
<b>【中学校の総合的な学習の時間の目標】</b> ○身近な地域の「ひと・もの・こと」について自ら課題を見つけ、探究のプロセスを踏まえながら主体的・協働的に解決していく力を育てる。 ○学び方、ものの見方、考え方を身につけ、学習の成果を分かりやすくまとめたり発表したりする力を育てる。 ○調査したこと、体験したこと、学習したことを自らの生き方に結びつけ、自己実現に向けて考える力を育てる。		<b>【願い】</b> ○保護者 ・基礎学力と社会規範を身につけ、思いやりの心を持ってほしい。 ○地域 ・地域のひと・もの・ことと存分に関わりながら自らの体験を通して学ぶことで地域のよさを感じてほしい。	
<b>【中学校の総合的な学習の時間の内容】</b>			
<b>探究課題</b> 地域 ・ふるさとの身近な自然環境歴史産業の特色。他地域と	<b>育成を目指す具体的な資質・能力</b>		
	<b>A 知識及び技能</b> ア 身近にある豊かな自然や歴史、産業を知り、自分たちの生活と関連付けて考えることができる。	<b>B 思考力、判断力、表現力等</b> ア 対象にふれ、興味・疑問から追究の視点を持ち課題を見つけ、解決するための学習計画を立てることができる。イ 課題解決に向け	<b>C 学びに向かう力、人間性等</b> ア 友だちや対象となる人の考えを認め、自分の考えや思いと比較し、似ているところや違いを明確にしながらか自分の考えを深めていくことができる。

### Q3 「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成のポイントは何ですか？



- ① 全体計画に示されている、育成を目指す具体的な**資質・能力を意識して計画し**、学習活動や子どもたちの思いが、連続し発展するように構想しましょう。
- ② 横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等で身に付けた資質・能力を把握し、発揮する場面を年間計画の中に位置づけましょう。

作成には、次の点について留意しましょう。

- ・子どもたちの学習経験
- ・季節や行事など適切な活動時期
- ・各教科等との関連
- ・外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流

#### 例 中学校3学年の年間指導計画(一部分)

【3学年の目標】 ・ふるさとと自分の生き方を関わらせて、どのように歩んでいくか自分の考えがもてる。

		4月	5月	6月	7月
総合的な学習の時間	学年	古都奈良・京都を知る (6h)		私の将来 (14h)	
	学級	スイカプロジェクト (ふるさとに伝える)		スイカを育てて育てよう (15h)	
各教科との関連		国語:話し合っ提案しよう	理科:生命の成長と生殖 遺伝の規則性	社会:地方自治を考えよう	技術:植物の生育

全校の職員で協力しながら作成すると、共通理解が進み、実践することにつながります！

計画の必須の3要件

- ① 学校教目標
- ② 各学校目標
- ③ 各学校の内容  
( 探究課題 育成を目指す具体的な資質・能力 )

**【生徒の実態】**  
 ○他者の話を素直に聞き入れることができる。  
 ○友達と役割を分担しながら意欲的に活動することができる。  
 △自分の考えを他者に伝えようとすることに消極的な面がある。  
 △友と考えを共有したり、深め合ったりすること積極的になりにくい。

**【学校教育目標】**  
 かしこく  
 やさしく  
 たくましく

**【地域のひと・もの・こと】**  
 ひと…地域に住む方々、地元企業で働く人々  
 もの…寺、神社、桜並木、高原、河川、用水路、田畑、温泉、福祉施設、病院、公園、商店街  
 こと…伝統文化、産業、祭り、芸能

**学習指導要領の目標 (総合的な学習の時間)**  
 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

**【A中学校の総合的な学習の時間の目標】**  
 全校テーマ「ふるさとを想う」  
 探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、事故の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

**【知識及び技能】**  
 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

**【思考力、判断力、表現力】**  
 地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

**【学びに向かう力、人間性等】**  
 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

**【願い】**

○保護者  
 ・基礎学力と社会で生きて働く資質・能力を身につけてほしい。  
 ・いのちの大切さ、仲間を思いやる心を育ててほしい。

○地域  
 ・この地域で生まれ育ったことのよさを実感できるように、地域に関わる学習をしてほしい。

自校の探究課題に応じて「知識及び技能」を設定する

**【A中学校の総合的な学習の時間の内容】**

資質・能力の3つの柱で設定

よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくこと(学習対象)に結びつく探究課題を設定する

探究課題	育成を目指す具体的な資質・能力				
	A 知識及び技能		B 思考力、判断力、表現力等	C 学びに向かう力、人間性等	
	知識	技能			
環境	・地域の自然環境や環境問題とその保全に取り組む人々や組織	・地域には、豊かな自然環境があることや、その保全に取り組む人々が存在することを知らるとともに、地域の環境の現状と自分たちの生活との関わりを理解することができる。	・調査活動や情報収集、目的や相手に応じたふさわしい関わり方などについて、それらの手順を様々な場面や状況で活用可能なものとして身体化し、安定的に発揮することができる。	ア 自分たちを取り巻く社会に広く目を向けて、活動の意図や目的を明確にしたりして課題を見いだすことができ、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。 イ 目的に応じて手段を選択し、情報を収集し適切な方法で蓄積することができ、他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択することができる。 ウ 問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けることができ、事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析することができる。 エ 調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができ、国語科や外国語科等で身に付けた技能を活用して表現することができる。	ア 自分の意思や目標をもって、自他のよさを生かしながら協働して課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。 イ 探究的な学習を通して自分の特徴やよさを理解するとともに、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする。 ウ 進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとする。
福祉	・学校近隣や地域や福祉施設で暮らす高齢者 ・幼稚園、保育園などの年少者	・地域には高齢者や年少者が暮らしやすいよう支える施設があることを知らるとともに、お互いが支え合って生活していくことの価値に気付くことができる。			
職業	・地域に根付いている産業やそこに従事する人々や職業	・地域には人々が豊かな暮らしをしているために働いている人々があり、地域への思いや願いをもって従事していることを知り、自分の暮らしとのつながりについて理解し、自己の生き方について考えることができる。			

課題解決に向けた探究的な学習の過程を意識する

自分自身に関することと、他者や社会との関わりに関する意識を

**【指導方法】**  
 ・教師の教材研究を蓄積し、興味・関心を広げる課題の提示を行う中で、生徒自ら課題を設定しながら課題意識をつなげていくことができる学習の場を設定する。  
 ・「人・もの・こと」を年間計画に位置づけ、直接体験ができる学習を用意する。

**【学習の評価】**  
**【評価】** ○自己評価 相互評価  
 教師による評価 外部評価  
**【方法】** ○学習カード・ポートフォリオ  
 ○活動観察 (様子・発言・吹き)  
 ○意識・意欲の変化、アンケート

**【指導体制】**  
 ・担任以外の副担任、職員や地域ボランティア、外部講師などの地域における教育力を積極的に取り入れていく。  
 ・職員の研修や教材研究の場を既存の会議の中に設定する。

各学年の	1 学年 (50時間) 「ふるさと」を知る	2 学年 (70時間) 「ふるさと」に学ぶ	3 学年 (70時間) 「ふるさと」に伝える
題材例	・地域の名所 ・地域の自然 ・地域の文化	・地域で働く人々 ・地域に根差す産業 ・働くことの意味	・議会への提案 ・地域行事への参加 ・地域の未来を考える討論会

# 北信地区人権教育研修会兼長野県人権教育リーダー研修会を開催しました（12/3）

## 実践発表：地域で活躍されている人権教育リーダーの実践から学ぶ 「コロナ禍における今年度の取組から」

実践発表者 山屋秀夫さん(木島平村人権推進室指導員)

コロナ禍において、CATVを活用した人権啓発活動を進めるなど工夫しながら、正しい知識・人権感覚の育成に焦点を当てた取組を紹介していただきました。



【参加者の感想から】

○今、できることを真剣に取り組んでいる実践であると思いました。

○ネット上でも、コロナ禍における様々な発言が飛び交う中、このような取り組みは重要である。「自分も患者になるかもしれない」この気持ちを忘れず、デマや中傷に振り回されないようにしたい。

○あんなにすてきなポスターを描く子供達に子供のうちから正しい人権意識が育つようにしていくことが大人の務め、責任だと思えます。コロナウイルスの罹患者に対する差別・誹謗中傷を許さないという空気を大人達から作っていかなくてははいけない。

## 講演会「一人芝居『神々の謡 ～知里幸恵の自ら歌った謡～』

(アイヌの人々の人権)

講師 舞香(まいか)さん (劇団ムカシ玩具(げきだんむかしおもちゃ))

いわさき きょうこ さん (シンガーソングライター)

アイヌ民族に対する偏見・差別の現実と闘いながら、「アイヌ神謡集」著作に一生をかけた知里幸恵さんの生涯を力強く演じていただきました。

【参加者の感想から】

○後半、涙が止まらなかった。知里幸恵さんのことを教えてくださって本当にありがとうございました。“知らない”ということも関心を持たないことも大きな罪なことですね。勉強し続けたいと痛感しました。



○アイヌの人々について私自身知らないことばかりだったので、お二人による芝居を見てもっと知りたいと思いました。

平成31年4月に「アイヌ民族支援法」が制定されました。法律で初めて「先住民族」と明記されました。民族としての誇りが尊重される社会の実現が目的となっています。

差別のない多様で豊かな文化をもつ社会を築くために、先住民族の尊厳を尊重すると共に、現在のアイヌの人々の生活や意識にも思いをはせていくことも大事ではないでしょうか。